

資料2 個別ヒアリングのまとめ

		島田市医師会	島田歯科医師会	島田薬剤師会	榛原医師会	榛原歯科医師会	榛原薬剤師会	静岡県中部保健所	(医療関係有識者) べとレハムの園病院 顧問 星 和夫	(医療関係有識者) 静岡県立病院機構 前理事長 神原 啓文	(医療関係有識者) 静岡県立大学 教授 西田 在賢	(医療関係有識者) 静岡県看護協会 会長 望月 律子
機能	急性期を中心とした機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼津市立総合病院の計画と同じ時期なので、4都市の中での病院のあり方についても検討を行ったほうが良い。 ・ これを「核」にするというものを作る必要がある。 ・ 市立島田市民病院と焼津市立総合病院は現状では、補完関係にある。 ・ 分娩と精神科機能を復活させてほしい。 ・ 小児科や産婦人科が充実すれば、島田市の人口増加にもつながると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状と同様に、今後も救急医療の中核を担っていただきたい。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 救急医療に軸を置いた役割を担ってほしい。 ・ 急性期機能、教育研修機能、地域完結型医療を実践するための中核的機能、災害拠点機能を担っていただきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 医政局の考え方としては、地域中核的な位置づけの病院は二次医療圏に一か所であるが、地域的な需要から現状機能は維持してほしい。 ・ 保険局の考え方から考えると、地域一般病院を目指したほうが良いのでは。現状の医師体制で担える機能を担っていただきたい。 ・ 圏域では精神科領域が手薄となっている。懸案事項であり、なんとかしたい問題である。 ・ 感染病床についても引き続き対応してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで医療制度改革の中で聞いていたことが、平成26年度の診療報酬改定に組み込まれてきた。高度急性期と一般急性期の機能分化が示され、「総合入院体制加算」の施設基準をみると、市立島田市民病院の現状では高度急性期を目指すには厳しい状況である。 ・ 500床以上の病院は、診療報酬改定で、外来制限の方向性が示された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地域に高度急性期機能は難しいので、一般急性期となるのではないかと。 ・ 政策的な考え方からすれば、療養機能を現地に残し、一般急性期病院を適正規模でもつという考え方もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療行政の流れを踏まえ、2025年を意識した将来像を検討したほうが良い。 	
	災害拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時には重要な拠点病院である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時には重要な拠点病院である。 ・ 新病院は耐震性のある建物（免震構造）のほうが良い。 ・ トリアージエリア等、十分な面積を確保する必要がある。 ・ エリアを病院敷地内に設置したほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時には重要な拠点病院である。 ・ 周辺道路の液状化も考慮し、エリアは敷地内に設置したほうが良い。 ・ 災害時を考えるとアクセスルートは複数あるほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時には重要な拠点病院である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時には重要な拠点病院である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時には重要な拠点病院である。 					
	在宅医療・療養	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島田市内に市民病院と診療所の中間的な位置付けとなる施設が欲しい。 ・ 24時間型の訪問看護ステーションが島田市にあって欲しい。医師会としても在宅医療を継続するには厳しい状況となっている。 ・ 在宅医療については市民病院にバックアップ機能を担っていただきたい。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 現実には難しいが、外来機能と入院機能を分離し、外来機能に在宅を担わせることもあるのではないかと。 ・ 診療圏域が広域の場合、病院医師と診療所医師とのコミュニケーションを円滑にする仕組みが必要である。 ・ 規模は医師確保の実現性が前提である。市がどこまで医師招聘に協力できるのかもポイントである。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状では、志太榛原医療圏内の療養病床の確保は厳しい状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島田市として、地域に不足している療養病床を整備していくことも考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化により外来通院が困難となることから、在宅という要素は重要である。市としての構想が必要。 			

資料2 個別ヒアリングのまとめ

		島田市医師会	島田歯科医師会	島田薬剤師会	榛原医師会	榛原歯科医師会	榛原薬剤師会	静岡県中部保健所	(医療関係有識者) ベトレハムの園病院 顧問 星 和夫	(医療関係有識者) 静岡県立病院機構 前理事長 神原 啓文	(医療関係有識者) 静岡県立大学 教授 西田 在賢	(医療関係有識者) 静岡県看護協会 会長 望月 律子
機能	医師確保 看護師確保	<ul style="list-style-type: none"> 島田医師確保は厳しい状況が続くと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 機能・規模は医師確保が前提であり、市民にとって安心できる病院があってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 中核病院として、現状の医師数を維持していただきたい。 					<ul style="list-style-type: none"> 7:1のメリットがなくなると看護師不足は、今ほど気にしなくてよくなると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 若手医師を招聘するのであれば、専門領域の研修機能は不可欠である。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師確保は大変である。医学部の定員増により、今後医師が増える可能性はあるが、まだ、10年ぐらいは必要である。 	
	医療連携	<ul style="list-style-type: none"> 島田市は診療所と市民病院しかなく、中間的な位置づけの病院が存在しないため、医療提供体制に無理が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 歯科領域では地域完結型が進んでおり、歯科診療所と病院口腔外科での役割分担は明確となっている。口腔外科の充実をお願いしたい。 今後の高齢化に備え、病院との連携関係を継続したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な薬剤師会と病院による情報交換などを行っており、継続して欲しい。また、今後、在宅領域についても連携構築を予定したい。 医薬分業を継続して欲しい 薬剤師会の備蓄は、災害時に病院にとっても好ましいことと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 榛原総合病院の現状を考えると島田市民病院との連携は非常に重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も病院の口腔外科との連携を継続したい。 市民病院の医薬分業の導入はうまくいったと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 当薬剤師会もかかりつけ薬局会の一翼を担っており、今後も薬剤情報の共有等、地元薬剤師との連携構築を考慮いただきたい。 					
規模					<ul style="list-style-type: none"> 医師確保の実現性が前提である。 規模は現状よりも大きすぎない程度が良い。 				<ul style="list-style-type: none"> 急性期と回復期・療養は切り離して整備することが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 急性期の需要は減少していくのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来的に、医療制度の中で平均在院日数の短縮化も求められるかもしれない。 	
										<ul style="list-style-type: none"> 病棟単位当たりの看護師配置状況も踏まえた効率的な規模設定としたほうが良い。 厚生労働省は、急性期病床を約36万床から18~19万床に減らすことを考えている。今後、急性期病床は減る可能性があるが、下げた後に上げることができないので、将来的に療養病床に転用するなど、慎重に考える必要がある。 		

資料2 個別ヒアリングのまとめ

		島田市医師会	島田歯科医師会	島田薬剤師会	榛原医師会	榛原歯科医師会	榛原薬剤師会	静岡県中部保健所	(医療関係有識者) ベトレハムの園病院 顧問 星 和夫	(医療関係有識者) 静岡県立病院機構 前理事長 神原 啓文	(医療関係有識者) 静岡県立大学 教授 西田 在賢	(医療関係有識者) 静岡県看護協会 会長 望月 律子	
建設地	建設地の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 最初からすべての好条件の場所を検索することは困難と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 浜岡原発との位置関係も考慮する視点を考える。 患者住所地から市民によるアクセスが容易であることが前提である。 	<ul style="list-style-type: none"> 救急搬送や患者住所地の重心が判断材料と言える。 患者のアクセスが容易であることを考慮したほうが良い。 災害により橋が損傷して使用できない場合も考慮して選定したほうが良い。 災害時の非常時薬品供給も考慮し、調剤薬局との位置関係も考慮したほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 競合との位置関係を考慮すると、藤枝市に近づきすぎないほうが良いのではないかと。 十分な敷地面積を確保できることが条件である。 バスのアクセスやインターチェンジ等のアクセス容易性を考慮したほうが良い。 現地建替えとした場合、工期が長期化すると患者や職員のストレスにも影響するのではないかと。 一時的な診療機能の低下または停止は避けていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 建設場所については人口が集中している地域が望ましい。 交通アクセスが容易であることも判断材料として必要である。 建設地には、災害拠点病院として求められる要件を満たす場所である必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在地より東へ移転すると藤枝市立総合病院に近づいてしまう。近すぎないよう望ましいのではないかと。 少なくとも駅からバスまでの間で考えたほうが良い。大井川を超えた場所は難しいと思う。 「島田市民病院行」のバス路線整備も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 藤枝市立総合病院との位置関係は建設地を判断する要素と言える。 圏域南については、焼津市立総合病院と近いことが考えられる。 焼津市立総合病院の建設計画も考慮したほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> できれば更地のところに建設するほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化により、車で通えない人もでてくる。バスなど公共交通も必要である。 			
	事業費			<ul style="list-style-type: none"> 建設事業費のシミュレーションを行い、判断したほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 用地買収の容易さや事業費のシミュレーションにより最終的に判断したほうが良い。 				<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度診療報酬改定の内容を踏まえたシミュレーションを実施し、その結果を踏まえて最終的に判断したほうが良い。 建物の地下（地階）の使い方とヘリポートは建物の構造に影響するので、当初から考慮したほうが良い。 				
	駐車場		<ul style="list-style-type: none"> 駐車場は現状よりも広めの確保を望む。高齢者向けに平地で確保することが望ましい。 		<ul style="list-style-type: none"> 敷地の有効活用という観点から、駐車場は立体駐車場が良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 市立島田市民病院の駐車場は、藤枝市立総合病院と比較すると待ち時間があり、狭く感じるのでは、改善したほうが良い。 			<ul style="list-style-type: none"> 病院施設の地下に、駐車場を設けると良い。 				
	その他		<ul style="list-style-type: none"> 駐車場だけでなく、バスをもっと増やすことも考えて欲しい。 		<ul style="list-style-type: none"> エレベーターを設置するのであれば、騒音問題も考慮し、街中以外が良いのではないかと。 								